

西伊豆健育会病院 藤井 紗穂 (3階病棟 看護師)

- 功 績** 新人中国人看護師のプリセプターとして、きめ細やかな指導で人材育成に貢献し、プライベートでもプリセプティーの心に寄り添い、文化や言葉の違う環境に短期間で順応させた功績
- 推 薦 者** 磯谷 里佐
- 推 薦 理 由** プリセプターの経験が初めての藤井は、試行錯誤をしながら新人中国人看護師を指導し、また業務を超えてプライベートでも心に寄り添い、プリセプティーを短期で職場と地域に順応させた藤井を理事長賞に推薦いたします。

内 容

今年4月から3名の中国人看護師が入職し、2名が3階病棟に配属されました。プリセプターの一人として任命したのは入職2年目の藤井紗穂です。藤井はプリセプターとなったのは今回が初めてであり、新人が中国人ということもあり、果たしてどれだけのことができるのか不安がありました。藤井は不安を払拭するために、先ずプリセプティーのことを知ることから始めました。仕事からプライベートなことまで積極的に話し掛けました。またプリセプティーにとって、何でも話しやすい存在でいられるように、慌てず忙しそうにしないこと。優しく分かり易い言葉でハッキリ話すことを心掛けました。そして困ったことがないかなど、常にプリセプティーに心配りを忘れませんでした。

プリセプティーと一緒に業務をすると、痛みの表現「ちくちく」「しくしく」等の日本語のニュアンスを伝えることが難しく、インターネットを活用して擬音の説明をしました。またプリセプティーが患者さんと会話をしている時に、内容を理解できていない場合は、返事が曖昧であったり、表情が硬いため、「患者さんに、どういう意味か聞き返してみてください」とアドバイスしました。ですが当初、予測していた様な言葉の壁はなく、日本語の能力高さに感心させられました。

また藤井はプライベートでもプリセプティーとサイクリングや食事にも出掛け、病院とは違った環境で精神的なフォローをし、心の距離を縮める努力をしました。プリセプティーに感想を聞くと、「病院では話せないことをたくさん伝えることができ、とても楽しかったです。」と笑顔で答えてくれました。プリセプターの業務を超えた藤井の心配りは、プリセプティーに安心感と異国の地で頑張る力を与えました。師長として二人の間に信頼関係が築かれたことを実感しました。